令和８年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立加島小学校の結果

～分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について～

区　　名	淀川区
学　校　名	大阪市立加島小学校
学 校 長 名	米倉　正義

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和８年４月に、６年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査内容

(1)　教科に関する調査

・国語

・算数

(2)　質問調査

・児童に対する調査

・学校に対する調査

３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童

・大阪市立加島小学校では、第６学年　69名

令和８年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立加島小学校の結果概要

国語科・算数科ともに、平均正答率は全国平均を下回った。対全国比は国語科・算数科ともに0.82で昨年度を下回る結果となった。また、平均無答率では、国語科が4.2%、算数科が5.0%と全国平均を上回るものの、昨年度と比べ改善傾向が見られた。
児童を4つの区分で分けると、「学力に課題の見られる児童の割合」（区分Ⅳ）は、国語科で39.7%、算数科で30.4%と全国平均と比べて高く、「正答率の最も高い児童の割合」（区分Ⅰ）は、国語科で19.1%、算数科で14.5%と低くなっており、区分Ⅲ・Ⅳの児童の割合が両教科ともに60%以上を占める結果となった。しかしながら、区分Ⅰについては、本校の昨年度（国語科13.8%、算数科9.2%）に比べて５ポイント以上の改善が見られた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】昨年度と比べて、「話す・聞く」「読む」に関する事項について改善が見られた反面、「書く」「言葉の特徴」については全国平均より10ポイント以上の差がついており、自分の考えが伝わるように工夫したり、まとめたりすることに課題が見らえた。また、言語事項など知識・技能面においての正答率が下がっているのが浮き彫りとなり、昨年度と比べて選択問題や短答式の質問においての誤答が目立った。

【算数】昨年度と比べ、「変化と関係」の領域で改善傾向が見られたが、「図形」「測定」「データの活用」において正答率が低くなっている。また、選択式、短答式の問題と比べ、記述式の正答率が低いという特徴がある。全領域で正答率が全国平均を下回っており、基本的な計算力などの知識・技能の定着不足と、その影響で応用的・発展的な問題に対応できていないと考えられる。

質問調査より

「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の質問に「している」と回答している児童の割合は、全国平均、大阪市平均と比べ下回っている。また、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に対して「30分より少ない」、「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか」の質問に対して「0～10冊 」を選んだ割合が高くなっており、「普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）」の質問に対して「２時間以上」と回答した児童の割合が高く、家庭学習に課題があるのが現状である。
教科については、国語科、英語科には意欲的に取り組めているが、算数科には苦手意識をもっており、「どのように考えたのかについて説明する」「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表する」などの質問で肯定的に回答する児童が少なく、思考・判断力を問われる問題や記述式の問題で正答率も低くなっている。

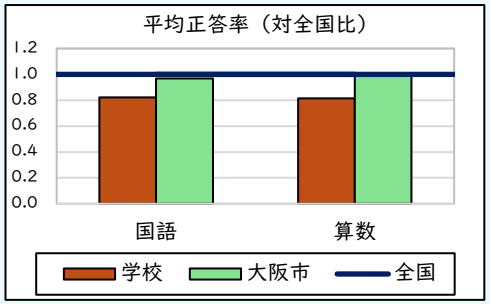
今後の取組（アクションプラン）

本校では、「学力に課題の見られる児童の割合」（区分Ⅳ）が高いので、合理的配慮や「個別最適な学び」を取り入れて授業改善に取り組んできた。また、児童の自己肯定感を高められるように、頑張りを積極的に評価し、達成感や安心感を感じられるような環境づくりを心掛けてきた。これらを継続的に行っていくとともに、非認知能力についての教員研修を行い、児童が目標に向かって粘り強く取り組む力、やり方を調整する力、協力し合う力を育めるようにしていきたい。また、教育課程の柔軟化による調整授業時数制度の活用や裁量的な時間の設定など、本校児童の実態に合わせて個に応じた学習過程の充実や、学習の素地を高める取り組みも進めていく。
さらに、児童が安定して学びに向かえるよう、保護者に生活リズムや家庭学習の協力を願い、学校・家庭の両輪で児童をサポートしていけるように引き続き取り組んでいく。

令和８年度　全国学力・学習状況調査　教科に関する調査結果の概要

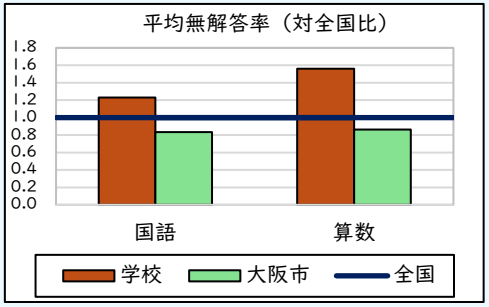
平均正答率（%）

	国語	算数
学校	50	46
大阪市	59	56
全国	60.9	56.4



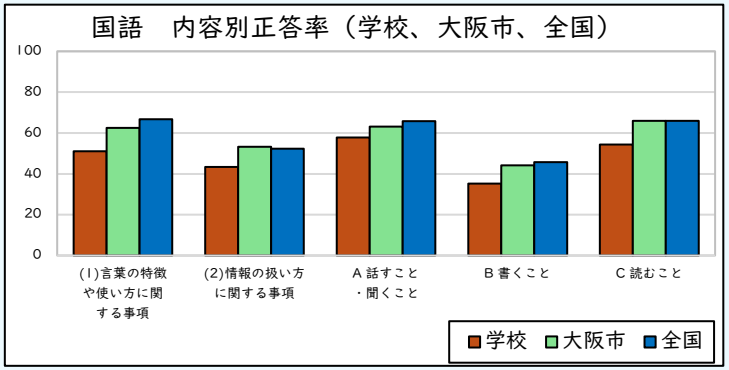
平均無解答率（%）

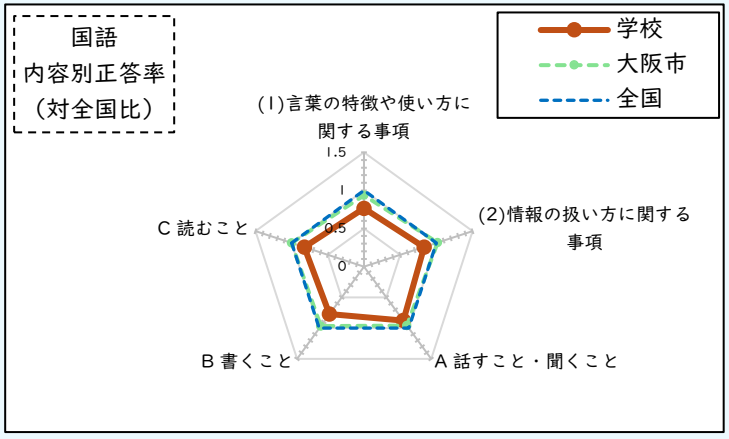
	国語	算数
学校	4.2	5.0
大阪市	2.8	2.8
全国	3.4	3.2



【国語】内容別正答率

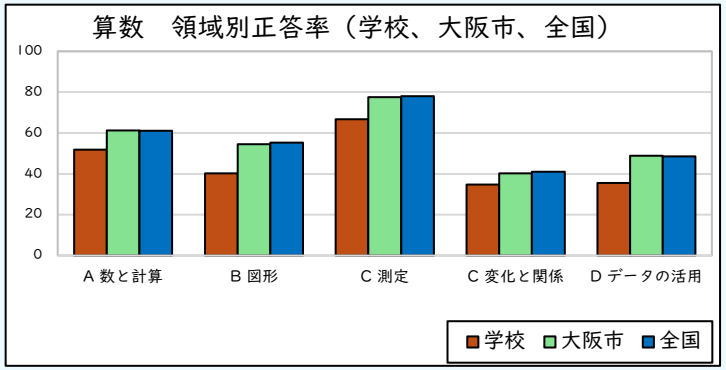
学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（%） 学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	4	51.1	62.5	66.8
(2)情報の扱い方に関する事項	2	43.4	53.2	52.3
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	－	－	－
A 話すこと・聞くこと	3	57.8	63.1	65.8
B 書くこと	2	35.3	44.2	45.7
C 読むこと	2	54.4	66.0	65.9

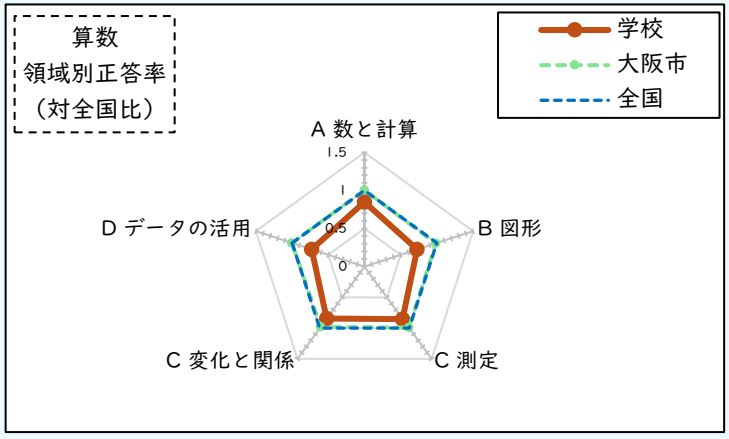




【算数】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（%） 学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	51.8	61.2	61.1
B 図形	4	40.2	54.5	55.3
C 測定	1	66.7	77.5	78.1
C 変化と関係	3	34.8	40.3	41.1
D データの活用	4	35.5	48.8	48.6



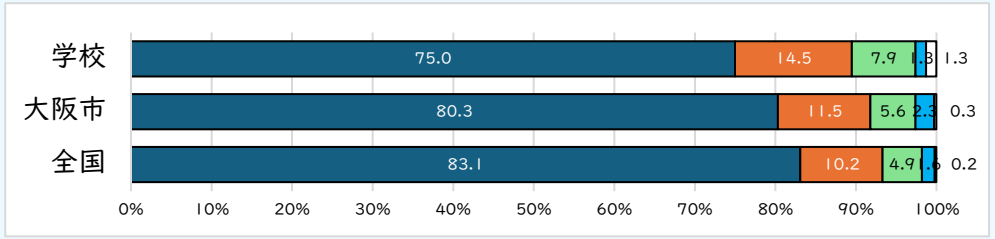


令和８年度　全国学力・学習状況調査　児童質問調査より

質問番号　　質問事項

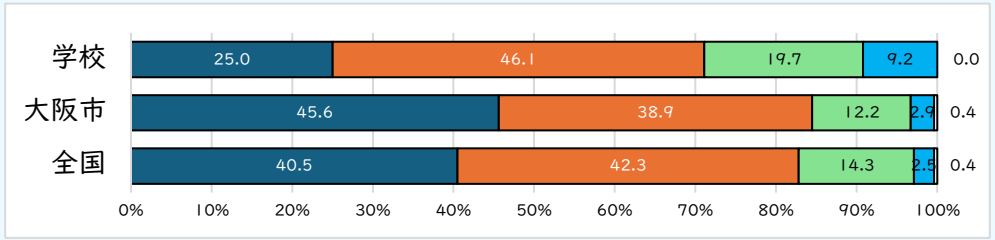
※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

（１）朝食を毎日食べていますか



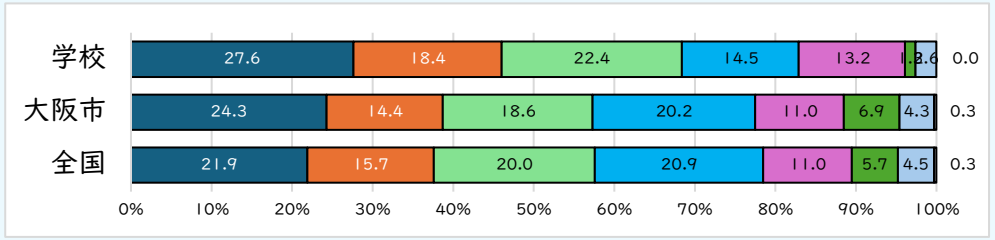
１　している
２　どちらかといえば、している
３　あまりしていない
４　全くしていない

（２）毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



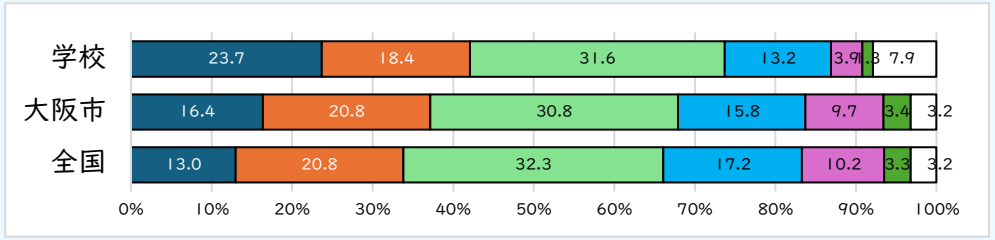
１　している
２　どちらかといえば、している
３　あまりしていない
４　全くしていない

（４）普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）



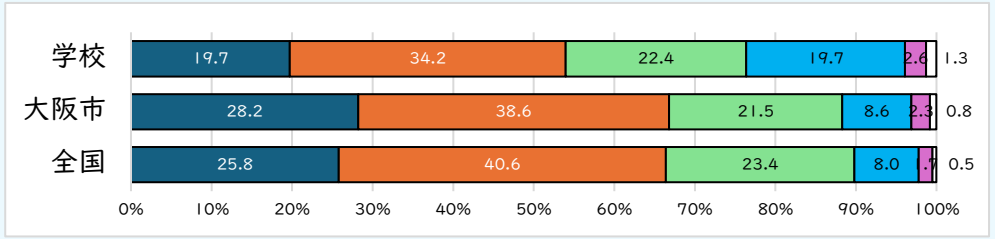
１　４時間以上
２　３時間以上、４時間より少ない
３　２時間以上、３時間より少ない
４　１時間以上、２時間より少ない
５　３０分以上、１時間より少ない
６　３０分より少ない
７　スマートフォン等を持っていない

（２９）あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）



１　０～１０冊
２　１１～２５冊
３　２６～１００冊
４　１０１～２００冊
５　２０１～５００冊
６　５０１冊以上

（３８）５年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



１　発表していた
２　どちらかといえば、発表していた
３　どちらかといえば、発表していなかった
４　発表していなかった
５　考えを発表する機会はなかった

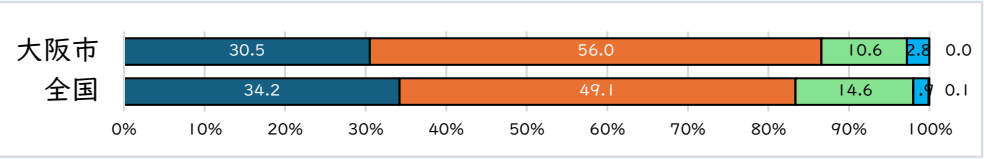
令和８年度全国学力・学習状況調査　学校質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

質問番号	質問事項
（２４）	児童にとって、学校施設全体として、児童が学びや生活がしやすく、居心地のよい建物だと思いますか
（３３）	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか
（４５）	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、国語の授業で、学習状況に即して児童のよい点や進歩の状況を積極的に伝えることを行いましたか
（５６）	英語の授業以外にも児童が英語に触れる機会（イングリッシュキャンプ、English Day、昼休みの英語での放送等）をどの程度設けていますか
（６０）	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

（２４）

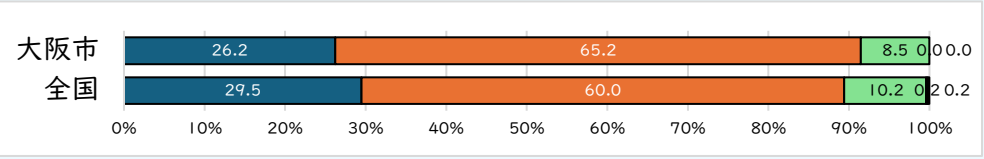
【学校の回答】　３　どちらかといえば、そう思わない



１　そう思う
２　どちらかといえば、そう思う
３　どちらかといえば、そう思わない
４　そう思わない

（３３）

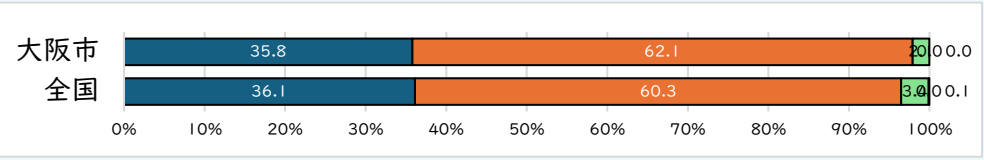
【学校の回答】　３　あまり行わなかった



１　よく行った
２　どちらかといえば、行った
３　あまり行わなかった
４　全く行わなかった

（４５）

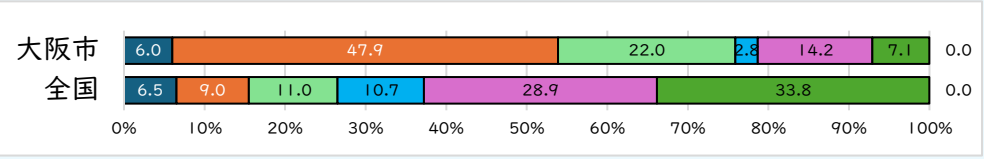
【学校の回答】　２　どちらかといえば、行った



１　よく行った
２　どちらかといえば、行った
３　あまり行わなかった
４　全く行わなかった

（５６）

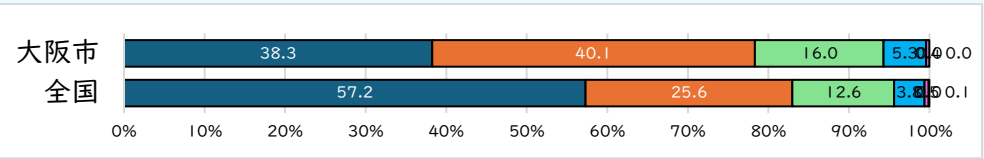
【学校の回答】　５　年数回程度



１　ほぼ毎日
２　週数回以上
３　週１回程度
４　月１回程度
５　年数回程度
６　設けていない

（６０）

【学校の回答】　２　ほぼ毎日（１日に１回くらいの授業で活用）



１　ほぼ毎日（１日に複数の授業で活用）
２　ほぼ毎日（１日に１回くらいの授業で活用）
３　週３回以上
４　週１回以上
５　月１回以上
６　月１回未満